

東京大学経済学部資料室所蔵「高橋是清日記 明治三十一年」

— 横浜正金銀行時代 —

前田亮介

はじめに

本稿は、戦前期日本の代表的な財政家であった高橋是清（一八五四～一九三六）が明治三一（一八九八）年九月二六日から一二月三一日にかけて記した日記の全文を紹介するものである。日本における国際金融家の先駆として、日露戦後の国際金融網の一角を担う高橋の姿はよく知られているが、その前段階において高橋がどのような政治経済資源を蓄積していたのか、その具体像は必ずしも明確ではない。以下に紹介する高橋日記は、明治二八年八月に日本銀行から横浜正金銀行に出向し、三〇年四月には副頭取に昇格する高橋の、正金銀行時代のキャリアの最末尾を飾るものであり（三二年二月に日本銀行副総裁に転任）、これまで本格的な検討に付されてこなかった史料である。

最初に、本日記の存在を知ることとなった経緯を説明しておきたい。東京大学経済学部資料室が所蔵する「横浜正金銀行資料」は、旧東京

三菱銀行から二〇〇〇年四月に東京大学経済学部図書館に移管された膨大かつ貴重な史料群であり、現在は同学部資料室の管理の下、順次マイクロフィルム化が進められている。しかし、マイクロフィルム化されていない史料もまだ一定数存在する。『横浜正金銀行全史』（全六巻、東京銀行編刊、一九八〇～一九八四）編纂のために収集された「正金銀行史編纂資料」はその一つである。そして、近年作成された仮目録上の「正金銀行史編纂資料」の項目には、「高橋是清日記 明治三十一年」という表題を確認することができる。²⁾

筆者が閲覧した日記は、背部分に「高橋是清日記 明治三十一年」と記されたグレーのファイルに入っており、横一七〇ミリ×縦二四五ミリの「横浜正金銀行」罫紙を二つ折りしたものにペン字、縦書きで記入されている。計二八枚、各頁に一～五六までの番号が付され、二個の金具で右綴じされている。³⁾これは、『横浜正金銀行全史』編纂の中心にあった新井真次氏が、高橋の評伝『波瀾万丈』（上下巻、東京新聞出版局、一九八〇）を著している長野広生氏から、原本の複写版

を再複写した版の提供を受けたものであり、原本はこの一纏りで高橋家が所蔵していたようである。今回、東京大学経済学部資料室の尽力による「横浜正金銀行資料」の整理に伴って、三〇年振りに日の目を見ることとなった。

もつとも、長期にわたり継続的につけていたとされる高橋の日記が、研究者の耳目を集めてこなかったわけではない⁽⁴⁾。実際、過去に金解禁直前の日記と、日露戦争中の外債募集の日記⁽⁵⁾（国立国会図書館憲政資料室所蔵「高橋是清関係文書」）の二種類が紹介されており、また、明治三二年中の「和文日記」が存在することも、すでに知られていた⁽⁷⁾。明治期に関していえば、その他、高橋の秘書官を務めた上塚司の旧蔵文書中に、農商務省時代（明治一八年一〇月二日～十一月二四日）と、日本銀行西部支店長時代（明治二六年九月一六日～一〇月二二日）の日記が残されている⁽⁸⁾。前者は特許行政に関する欧州調査の出發直前、後者は西部支店長就任直後と、ともに高橋の外的環境が大きく変化する時期のものであり、上塚司編『高橋是清自伝』（上下巻、中公文庫、一九七六、以下『自伝』）の記述とも符号していることから、『自伝』の編纂作業に即して参照された史料といえるだろう⁽⁹⁾。

これに対し、本日記と『自伝』の内容的連関は、必ずしも明瞭なものではない。実際、『自伝』では六頁の分量のうちに、松田正久蔵相との外債募集をめぐる会談、商業会議所連合会での民間経済批判、岩崎弥之助日本銀行総裁の辞任と日本銀行課税問題などが駆け足で論じられているにすぎない。同時代の政治的密度の高さにも拘らず、『自伝』の編纂の過程で、本日記が高橋と上塚から、少なくとも積極的に利用されなかったことは、おそらく間違いない。

しかるに、そのことは、本日記の史料の含意の貧困さを物語るわけ

ではない。以下、経済史研究ではなく、政治史研究における本日記の意義を展望しておきたい。本日記の範囲は、井上馨（第三次伊藤内閣蔵相）の要請を受けた高橋が、八ヶ月にわたる欧州での外債調査から帰国した直後の段階に当たっている。そのこと自体、政党の主張する外資導入が藩閥側でも有力な政治的選択肢として浮上した時代状況を伝えるものであり、政治上の区分としても、第一次大隈内閣（隈板内閣）の成立と崩壊を経て、第一三議会で地租増徴法案が成立する内政上の転換点に位置する。高橋のような専門金融家の軌跡から、次の大きな対外戦争を前に、金融と政治の領域の分水嶺が融解しつつある日清戦後の明治国家を照射することも可能かもしれない。

実際、日本最初の政党内閣の誕生は、公的金融機関の関係者にも無関係ではすまされなかった。民党連合を基礎とする第一次大隈内閣の成立（明治三一年六月）を機に、金利政策をめぐる大蔵省と日本銀行との間に緊張が生じ、与党内外で反日本銀行キャンペーンが繰り広げられる事態となったからである⁽¹⁰⁾。大隈重信首相の援護射撃のないまま、岩崎総裁が辞任に追い込まれると、「追々種々の怪物現出可致と奉存候」という声が挙がり、山県有朋も「是より大会社各銀行は党類之巢窟と相成可申察候」と述べて政党進出への危機感を新たに⁽¹¹⁾する。しかし、このような金融の政治化を前に、高橋は活動領域を拡大していく。自身、「そのころはいろんな機会において、政界知名の士と出会うことが多かった」と回想するように⁽¹²⁾、本日記から浮かび上がる高橋の関心は、大阪築港公債を外債で募集するかどうか（一〇月二九日、三一日、一月七日、一〇日、一六日、一二月七日、一〇日、一三日）といった経済的争点にとどまらない。よく知られた地租増徴問題への対応（一二月一三日）の他にも、憲政党と提携した第二次山

県内閣が第一三議会で可決を目指す「日本銀行納税に関する法律案」に関して議会への運動費に「三万支出」という生々しい記述が見られ（二月二八日）、隈板内閣の内紛の際には京浜銀行が板垣退助や星亨に大金を貸し出したといった話も飛び込んでくる（二月二二日）。

また、岩崎総裁後任人事や台湾銀行頭取人事の件は、この頃の高橋が、横浜経済界にとどまらず、日本銀行を含む経済社会全体に一定の影響力を有していることを、示唆する記述である（一月一日、二〇日、二六日）。実際、九州支店増設や資金融通の請願の存在（二月二二日、二二日）は、当該時期において高橋ないし正金銀行に寄せられた期待の大きさを、伝えるものといえよう。

他方で、休日は葉山で静養し、平日の夜はしばし宴会に参加して時には終列車で横浜まで戻る高橋の日常が、淡々とした記述の中から伝わってくるのも、本日記の隠れた魅力である。類出する常盤屋、瓢屋、千歳楼、湖月楼などの固有名詞はすべて料亭の名称である。また、重要書類が入っているにも拘らず、意外なほど不用心な内国部金庫のセキユリティーに関するエピソード（二月三日）も何とも微笑ましい。多忙な時間を縫って、恩人たる故・川田小一郎（前日本銀行総裁）への義理を欠かさない点（一月二八日、一月四日）、専門官僚化が十分進んでいない日露戦争前における金融家のリクルートの様態が、月給など細部にわたって具体的に描出されている点は、とりわけ興味深い（二月二七日、一月一六日、一七日、二四日、二月二二日、二四日）。

そして、右に見た清水義英の入行に際して「英仏文」が課されていたように、外資導入が財政運営上不可避となった時代の専門金融家に、語学能力とそれを生かした人的ネットワークの構築は必須であった。⁽¹⁴⁾

シヤンドなど欧米の銀行家と信頼関係を築き、精力的に在外支店への指示を取りしきる本日記の高橋からは、後年国際金融家として活躍する素地をすでに見出すことができる。日本銀行副総裁として日露戦争中の外債募集交渉を主導した高橋のリリースは、正金銀行時代に多く淵源するものであろう。さらに、日露戦後の高橋は、卓越した実務能力を背景にやがて原敬と連携して大蔵省との対立を惹起し、⁽¹⁵⁾大正政変後の第一次山本内閣では政友会員として入閣（蔵相）する。こうして次第に形成されていく高橋の政治的人格を、内在的に理解する上でも、本日記の寄与するところは、決して少なくないように思われる。

註

(1) 三谷太一郎「日本の国際金融家と国際政治」(同『ウォール・ストリートと極東—政治における国際金融資本』東京大学出版会、二〇〇九、初出一九七四)。正金銀行時代の高橋の政策的志向については、石井寛治「横浜正金銀行の貿易金融」(同『近代日本金融史序説』東京大学出版会、一九九九、初出一九九四)二五八—二五九頁を参照。

(2) 武田晴人編『横浜正金銀行資料仮目録』(東京大学経済学部図書館資料室、二〇〇八、同図書館所蔵)一六一頁。同資料移管の経緯は、所収の解題を参照。

(3) なお、最初の五日間については「八月」と記されているが、八月中の高橋は外債調査中で日本にいないこと、三〇日で日記の記述が終わっていること、末尾の抜粋部分では同じ内容が「九月」とされていることから、これは九月の間違いだらう。或いは「九」の字の上部が薄れて「八」と見える可能性もある。

(4) 御厨貴「高橋是清遺稿集」とその周辺―「高橋是清関係資料」を求めて」(『特許研究』五、一九八八)、および武田知己「高橋是清」(伊藤隆・季武嘉也編『近現代日本人物史料情報辞典』吉川弘文館、二〇〇四)。

(5) 山本四郎「史料紹介・高橋是清日記(昭和四年一〇月一三日―二月四日)」(『日本歴史』四九三、一九八九)。

(6) 藤村欣市朗「高橋是清と国際金融」上巻(福武書店、一九九二)において全文が日本語訳されている。

(7) 同右下巻、三三五頁。同書の「あとがき」によると、藤村氏は、前述の新井眞次氏らとともに『横浜正金銀行全史』編纂に携わったメンバーの一人である。

(8) それぞれ、「日記修正・転記」・「高橋翁日記」、国立国会図書館憲政資料室寄託「上塚司旧蔵文書」七六・二七。後者は、「南満洲鉄道株式会社」野紙に貼りつけられた用紙の上に記されている。本日記と異なり、期間内に継続的に記されているわけではない。上塚の来歴については、武田知己「上塚司」(前掲『近現代日本人物史料情報辞典』三、二〇〇七)を参照。

(9) 『自伝』の史料性格については、リチャード・J・スメサースト「高橋是清 日本のケインズ―その生涯と思想」(鎮目雅人・早川大介・大黒摩里訳、東洋経済新報社、二〇一〇、原著二〇〇七)三八七―三八八頁。

(10) 積極金融を求める自由党系政治家と鉄道資本家の間では「日本銀行攻撃論」が展開された。岩崎総裁は、代表的な鉄道資本家・雨宮敬次郎の動向について、調査を依頼している(明治三十二年七月二六日付豊川良平宛書翰、静嘉堂文庫編刊『岩崎弥之助書翰

集』(二〇〇八)二二〇―二二三頁)。他方、国民協会系の『中央新聞』は、岩崎家と大隈重信の歴史的関係を告発する「黄金魔王」と題した全三〇回の連載を開始した(明治三十一年一〇月一日―一月七日)。

(11) 明治三十一年一〇月二〇日付山県有朋宛古沢滋書翰、尚友倶楽部山縣有朋関係文書編纂委員会編『山縣有朋関係文書』三(山川出版社、二〇〇七)一九九頁。

(12) 明治三十一年一〇月一四日付品川弥二郎宛山県書翰、国立国会図書館憲政資料室所蔵「品川弥二郎関係文書」七三〇―一三九。

(13) 『自伝』下、一二七頁。

(14) たとえば、日露戦争前に山本達雄総裁を解任する形で、大蔵省から後任に送りこまれた松尾臣善は、高い事務能力を誇る実直な官僚ではあるものの、フランス留学経験のある田尻稲次郎らと比べて語学力(特に英語力)を全く欠いていた。「塩川三四郎氏金融史談」(日本銀行調査局編『日本金融史資料昭和編』三五、大蔵省印刷局、一九七四)一一三・一一八頁。日本銀行内部で高橋がプレゼンスを増大する力学は、こうした松尾総裁の個性からも一定程度説明できるだろう。

(15) 坂野潤治『大正政変』(ミネルヴァ書房、一九八二)一〇四―一〇六頁。

〔高橋是清日記 明治三十一年〕

〔凡例〕

本日記の翻刻にあたっては、基本的に原文に忠実に従うよう努めた

が、読みやすさを考慮して次のような準則を設定した。

- 一 句読点は、適宜補足・加減した。また、旧漢字は原則として常用漢字に改めた。ただ、慣用的表現や人名中の旧漢字は採用した。
- 一 人名などに関する筆者補記は、初出時に「」として付け加えた（外国人はわかる範囲で補った）。閣僚や官僚に関しては、役職名も追加した。また、誤記はなるべく原文通りに残してあるが、必要に応じて「」を補うこととした。欄外の書き込みも、「」で再現した。

- 一 細字については、「」を付した上で通常のフォントに改めた。
- 一 かすれなどで判読困難な箇所には□記号をあてた。

九月二六日（月）

重役会ニテ戸沢〔鼎〕妻君渡〔布〕哇ノ事議定。昼飯后相馬〔永胤・正金銀行頭取〕氏同行、大隈〔重信〕総理官邸ニ赴キ外債談ヲ済マス。夫ヨリ大蔵省ニテ添田〔寿一〕次官ニ面会、其后岩崎〔弥之助〕日本銀行〕総才宅え招カレ主人ト兩人丈ニテ晩食、九時十五分ニテ帰浜ス。廿八日再大蔵省へ出頭之筈。

到来書簡 首藤諒、井上静雄其他見舞状數十通。

九月二七日（火）

来状 在伯林宮岡恒次郎。安田善次郎氏ヨリ十月十一日還曆内祝ニ付案内状到来。其他馬関瓜生〔寅〕氏電報等ノ帰朝見舞状数通。

首藤〔諒〕氏え静岡迄出向方不出来旨返辞ス。佐野茂〔料亭〕え外国入六名招待晩餐ヲ供ス。商業会議所役員会ニ出席途中引取ル。

九月二八日（水）

- 一大蔵大臣〔松田正久〕ヨリ十二時出頭スベキ旨申来ル。
- 一来状 西卷〔豊佐久〕、大蔵大臣、秋山〔真之介〕、広瀬〔毅力〕。
- 一商業会議所廿九日開議出席断ル。
- 一大蔵省ニ而大臣ト昼飯ヲ了リ公債及経済社会ノ事ニ付各局長及次官等同席ニテ物語ル。帰途日本銀行ニ立寄建物会社員ト原田〔武力〕同行木挽町売品一見ノ上瓢屋名人会ニ出席。夜帰浜。

九月二九日（木）

- 一来状 農商務大臣〔大石正巳〕、豊川良平、各返辞ス。
- 一井上〔馨〕伯方ニテ昼飯及談話ス。松方〔正義〕伯訪問不在、農務省ニ大臣次官訪問大臣不在、帰浜出行ス。
- 一来状 高島小金治、但案内状。横浜米塩雜穀取引所理事長木村政次郎ヨリ十月一日開市ニ付案内状来ル、断ル。
- 一来状 長峰〔鋒〕郎。
- 一十月十一日毎月会十日ニ繰掲ノ由通知アリ。依テ承諾ノ趣三芳〔不明〕へ申遣ス。

九月三〇日（金）

- 一来状 高橋鑑三郎。
- 一頭取欠勤。午后二時ヨリ東京大倉〔喜八郎〕別邸ニ赴キ福池源一〔福地源一郎〕氏之孔子ノ説ヲ聴ク。榎本〔武揚〕、田中〔光顕〕宮内大臣、吉川〔芳川顕正〕、金子〔堅太郎〕、清浦〔奎吾〕、石墨〔石黒忠憲〕、安田、穂積〔陳重カ〕、前々大蔵大臣〔松方正義〕、渋沢〔栄一〕其他数名アリ。小田切〔万寿之助〕氏ニ面会ス。東京宅

へ帰り一泊ス。

一〇月一日(土)

土曜日。東京より直ニ葉山ニ戻ル。

来状 柳谷卯三郎、斎藤嘉一〔郎〕、原田武等。

一〇月二日(日)

日曜日。晴。鈴木〔知雄〕、古山〔教高〕、服部三樹之助〔介〕来訪、近藤某婦夫ニテ別荘ヲ見ニ来ル。鈴木と鈴木大亮氏ニ会食ノ事約束ス。但十五六日ノ頃ヲ宜トス。

一〇月三日(月)

月曜日。晴曇。

一横浜商業会議所午后一時より役員会開設之由通知書アリ、断ル。

一来状 三野村利助、首藤諒、武井守正、前田市、カルクーン。

一重役会ヲ了り大蔵大臣官舎へ往キ台湾銀行創立ノ件協議ス。帰途池

田〔謙三〕、鶴原〔定吉〕ト花屋ニ立寄終列車ニテ帰浜ス。

一〇月四日(火)

来状 長崎剛十郎、Geo. W. Cobb Jr。中村道太氏来訪事情談、葉山

へ一泊。

一〇月五日(水)

河上〔謹一〕一行帰朝セリ(午前九時着浜)。

一来状 トリイ〔Schuyler Duryee〕、戸沢。

一渡辺〔洪基カ〕氏来訪、同心〔伸〕会社本日合資会社トナル云々懇

談アリ。担当者ハ上野照〔昭〕道、林〔鶴太〕、徳江〔八郎〕、高木

〔三郎〕、丸山〔孝一郎〕。

一植野〔繁太郎〕氏ト葉山宅へ往キ此夜ヨリ風邪ニ罹ル。

一〇月六日(木)

引籠加養。

一〇月七日(金)

同上。カルクーンへ九日午前十時半深川岩崎邸ニテ待合ノ事申遣ス。

一〇月八日(土)

土曜日。

一農商務省ヨリ〔農商工〕高等議会議案回送セリ。

一昨七日商業会議所総会ノ由ナレ共病氣引籠中ニ付今日其由申送ル。

一日本銀行へ往ク。三井物産ヨリ招待明夕断ル。

一桂〔太郎〕陸軍大臣ヨリ明日午餐ニ招カル、断ル。本所ニ戻ル。

一〇月九日(日)

日曜日。

カルクーン。ハミルトン。シミヅド、パウエル兩婦人、マクフェブセ

ン等深川岩崎邸見物、上野精養軒ニ而昼飯。紅葉館ニテ食事中三番ノ

踏舞見ル。鈴木□荘方へ往キ一泊ス。

一〇月一〇日(月)

月曜日。

一日本貿易協会ヨリ来ル十六日例会ニ出席スヘキ旨案内状到来、断ル。

一横浜商業会議所より役員会四時ヨリ開会之旨申来ル、断ル。

一午后五時ヨリ帝国ホテル毎月会ノ招待ニ赴キ談話、夜帰浜ス。

一鶴原ヨリ総才辞職ノ物語アリ。

一池田謙三君え台湾銀行頭取引受ノ事鶴原ト兩人ニテ勧誘ス。同人熟考ノ筈。

一中井〔芳楠〕勲章及重役ノ事頭取及早川〔千吉郎〕氏ニ内談ス。

一〇月二一日(火)

火曜日。

一畑農実昨日不在中太田へ来訪、又今朝手紙受取。

一中村道太氏え書類郵便ニテ返送セリ。

一日本銀行ニ赴キ総才辞職ノ事詳細聞取り、河上鶴原ヨリ山本〔達雄〕へノ勧告方ニ付相談アリ。

一総才世間ニ対シ不在ト称ス。然シ其含ニテ訪問差支ナキ旨木村〔清四郎〕ヨリ伝言アリ。

一安田ノ園遊会ニ赴ク。帰途山本宅へ立寄、同人風邪。

一首藤ヨリ来状、夜直ニ返事出ス。

一〇月二二日(水)

水曜日。

一商業会議所役員会ニ赴ク、午前十時ヨリ。

一渋沢議長へ高等議會ニ関スル仏国農商務省へノ質問書□書ニテ送レ

リ。

一総才、日本銀行及大藏省へ往ク。添田不在。

一前田〔正名〕方訪問。

一武井氏来ル十六日葉山ニ来ル筈。

一〇月二三日(木)

木曜日。

一水野遵氏来訪、台湾協会基金ノ談アリ。五百円寄付ス、但五ヶ年賦。

一午后横浜銀行集会所ヨリ千歳〔楼〕ニ招カル。

一〇月二四日(金)

金曜日。

一中村道太来訪懇談アリ。天草炭礦ノ件。

一午后ヨリ葉山え往ク。

一〇月二五日(土)

土曜日。

一葉山。鍋倉〔直〕氏来訪。

一〇月二六日(日)

〔日〕曜日。

一葉山。武井氏来訪一泊。

一武井氏より懇談、帝国海上ノ為メ仕払ヲ香港及上海(ハンブルグ等ニテ)引受ノ件、并ニ日本商業銀行ニテ岩国及柳井支店ニ於テ布哇移民送金取扱ノ件。

一〇月一七日(月)

休暇。葉山。同神〔伸〕社員上野氏来訪組織変更談アリ。

一曾禰達藏氏ヨリ来状。

一〇月一八日(火)

火曜日。本日重役会(ト)ノ相開ク事。

一商業会議所役員会午後一時ヨリ開会、断ル。

一來状 中井、川島〔忠之助〕、正木銀作。

一出状 正木銀作、西卷、川島、長、今西〔兼二〕。

一魯〔露〕清銀行員シハナムベルジェル、同上海員ウベルツ来訪。

一來状 山口慎。

一〇月一九日(水)

水曜日。

一前田正名方へ往ク。川村純藏氏辞令書及上海小田切領事へノ送金拾

五円預ル。

一〇月二〇日(木)

木曜日。

一午前十時ヨリ農商務省高等議會へ出席、午后日本銀行へ往ク〔総才

任免アリ〕。

一出状 山口武彦。

一日本銀行ニ赴ク、総才〔山本達雄に〕定マル。末延〔道成〕氏より

鉄道社債券外国募集ニ付正金銀行記名及取扱ノ事内談アリ。未夕要

領ヲ得ズ。

一浅野総一郎君来訪昼飯ニ紅葉館へ招カル、断ル。

一〇月二一日(金)

金曜日。

一出状 中井芳楠、青木鉄太郎、川村純藏、ドリイ、谷謹一郎。

一日本火災社長渡辺洵一郎君来訪。

一小野光景外有志者ヨリ来ル廿四日午后五時ヨリ佐野茂へ招カル、承

諾セリ。

一午后日本銀行へ往キ諸公債類政府ノ分売却方倫敦へ差函ノ件相談ア

リ。

一高等會議ニ出席、六時半帰行。

一平沼〔専藏〕氏ヨリ来ル廿四日取引ノ件申来、返答セリ。

一〇月二二日(土)

土曜日。

一農商工高等會議出席、帰路葉山ニ行ク。

一出状 斎藤嘉一郎へ返事、同島郁太郎。

一生糸合名会社へ廿五日農商務大臣ヨリ招待ヲ受タルニ付、前後断ノ

手紙出ス。

一〇月二三日(日)

日曜日。

一葉山へ来訪者 行員豊島〔守三郎〕、高木〔貞作〕、大久保〔利和カ〕

婦夫。

一〇月二四日(月)

月曜日。

来状 ドリイ、渋沢、生糸合名、原田、貞翁〔不明〕、日本綿糸紡績
同業連合会事務所、大石正巳。

一出状 生糸〔合名〕、大石正巳、渋沢、三野村利助但物品付。

一山口武彦氏ヨリ来月一日案内承諾返事出ス。

一農商工高等会議出席。小野氏外有志者三十二名ヨリ佐野茂ニ招カル、
出席。

一來状 美沢進、(曾禰(英国廻ル))、長、今西、阿部〔彦太郎〕(桑
港)、木村巖、首藤。

一〇月二五日(火)

火曜日。

一出状 小田切領事(但前田よりノ送金為替入)、今西、長、宮岡恒
次郎、木村巖、美沢進へ断書、首藤へ返事。

一横浜商業学友会ヨリ廿八日招待ニ接ス、断ル(小野光景氏ト同日夕
前約アリ)。

一農商工高等会議出席夫ヨリ上野精養軒へ赴ク。文部大臣〔尾崎行
雄〕ヲ除キ各大臣出席セリ。押上ニ帰ル。農商会及赤十字者共ニ式
十円宛出金会員タルコトヲ諾スベキ旨申付ル。来ル三日外務大臣
〔大隈重信〕参会ノ報状来ル。

一〇月二六日(水)

水曜日。

一日本銀行へ赴キ鶴原ト談合(首藤ノ人気宜シカラス云々)(正金銀

行内不祥ノ次第)(大蔵省より有価証券売却方見合ノ件)午后二時
高等会議出席。夕五時ヨリ日本貿易協会ノ招待ヲ受赴ク。帰浜ス。

一〇月二七日(木)

木曜日。

一來状 三野村利助、星島定次郎、長鋒朗〔郎〕。

一出状 星島(但家屋実見ノ事、来月七八日過ノ事)。

一宗方茂八(島郁太郎齋藤嘉一紹介人)来訪、履歴書送ル筈。(銀行
集会所員戸田宇八来訪、速記録ノ件)。

一東京銀行集会所ヨリ上野精養軒へ招待セラル。帰浜。

一〇月二八日(金)

金曜日。

一 小野光景氏より前約ノ通り今夕面晤ノ事申来ル。同氏宅え五時頃参
る事ヲ返事ス。

〔欄外上〕「□□付ヲ□マークス。手紙出」

一 日本銀行野々村〔政也〕氏より輸出入表送り来ル。

一 高等会幹事ヨリ通報アリ。

一 川田龍吉氏より来月四日〔川田小一郎〕三回忌ニ付晚餐ノ招待セラ
ル、返事ス承諾。

一來状 植野繁太郎、同返事出ス。

一〇月二九日(土)

土曜日。

一 午前九時ヨリ高等会委員会出席、午后本会出席。葉山へ帰ル。

一安田善次郎君より大坂市債外国募集ノ件内々相談アリ。

一〇月三〇日(日)

日曜日。葉山。

来状 原田武。

一首藤諒君午后来訪。

一〇月三十一日(月)

月曜日。

来状 中山尚之助君(文旦一籠)、東京商工相談会幹事ヨリ十一月七日招待状、水野遵君(台湾協会招)、日本貿易協会。宗方茂八。美野〔濃〕部俊吉、農商工高等会式通。

一出状 商工相談会渡辺洪基君十一月七日午后四時同会定式大会帝國ホテルヘノ招待ヲ諾ス。水野遵君ヘ台湾協会演説断ル。

一午后高等会出席、帰浜。豊川、莊田〔平五郎〕、末延等ト花屋ニ而晚餐ス。

一堀越善重郎氏農商務省ヘ来リ過日来ノ相談ノ如ク書面ヲ出スコトトセリ。

一安田善次郎君ヨリ大坂築港債外国募集ノ事ニ付内相談アリ。

一二月一日(火)

火曜日。

一常備艦隊乗組員歓迎ノ儀ニ付浅田徳則(神奈川県知事)、梅田義信〔横浜市長〕。大谷嘉兵衛。渡辺福三郎氏ヨリ再度ノ協議会ヲ今夕六時より相開ニ付出席云々申来ル。差支ノ為メ断ル。

一日本貿易協会ヘ演説筆記一覽ノ上返送セリ。午后六時上野精養軒山

口武彦披露ニ往ク。

一来状 高等会。

一高等会出席午前九時ヨリ。

一二月二日(水)

午前九時ヨリ高等会出席。東京。

一二月三日(木)

東京。

一二月四日(金)

染井〔靈園〕墓参ノ后午前九時ヨリ高等会出席、午后四時川田邸ヘ往ク。東京。

一二月五日(土)

土曜日。銀行出勤。

一来状 常備艦隊迎委員、谷謹一郎、今西、原〔六郎力〕、三島豊彦、農商務省秘書官、渡辺洪基、宮島信吉、山本達雄、中野武宮、銘人会幹事。

一出状 銘人会幹事断ル、常備艦招待会断ル、布哇領事斎藤。午后三時ヨリ亀清楼ヘ農商務大臣及総理等招待ニ付出席ス。帰浜。

一二月六日(日)

日曜日。大隈伯観菊会不参。

一 早朝より葉山ニ到ル。堀越善重郎、遠田井吉来ル。
一 午前十時より横浜ニ而常備艦(将校士官)招待会、断ル。

一月七日(月)

月曜日。

一來状 安田善次郎(大坂築港公債ノ件長岡〔長カ〕へ翻訳依頼ス)、
長、今西、大倉喜八郎君より本夕招待状来ル。

一出状 大倉、原、鈴木梅四郎君へ明日ノ横浜経済会ノ招待断ル。谷

謹一郎君へ函面返戻ス。宮嶋君へ来ル八日偕楽園ニ昼飯ノ約束ス。

一 鶴原氏え千円切手相渡ス。但大石分。

一 大倉氏方へ往キ午后終列車ニテ帰浜。

一月八日(火)

火曜日。

來状 中井芳楠、美濃部俊吉、(手当原田へ切付〔符〕送ル)。

一 十時五十分ニテ東京偕楽園へ武井宮嶋面会ノ為メ赴ク。

一 毎月会湖月樓ニ催ス、誘引セラレ且入会セリ。

一月九日(水)

水曜日。

一來状 安田善次郎。鈴木梅四郎。浦島為助。

一 マクミラン来訪。台湾協会幹事三枝光太郎。

一 島郁太郎氏より来ル十二日葉山へ来ル旨申越ス。電報ニテ返事ス。

一 渡辺福三郎君ヨリ添書ヲ以テ生糸取引所支配人中村正義氏来訪、取

引所ノ話ヲ為ス。

來ル十日日本銀行ニテ東京出張所設置ノ件ニ付ボリセー上ノ内談ヲ
山本氏ト致ス事、頭取ニ話ス。

一月一〇日(木)

木曜日。

一 日本銀行ニ到リ山本薄井〔佳久〕両氏ト本行東京出張所之件ニ付相
談ノ上開設ノ方可然トノ事ニ決ス。依テ次会重役会ニテ此事ヲ議決

シ家屋借用ノ件申込ノ事。

一來状 山本達雄、(來ル十四日午後五時うなぎ会)、大隈伯(十四日

園遊会)、右返事ス。実業会中央本部。

一 日本銀行へ町野五八氏ヲ呼出シ大阪築港債ノ件ニ付談示ス。

一月十一日(金)

金曜日。

一 接待所見聞ス。

一 服部金〔兼〕三郎来訪為替延期ノ差金ニ付談示アリ、当方ノ無理。

一 住友銀行員森三郎氏鈴木馬左也及植野繁太郎之添書持参、身元取調

等ノ事ニ付質問アリ。

一 三井家ヨリ来ル十八日午后三時より同集会所園遊会ニ招待アリ、承

諾ノ返事出ス。

一 高等議會ヨリ書籍類ノ送付アリ。

一 東京商工相談会ヨリ来ル十五日帝国ホテルへ案内状来ル、断ル。

一 戸沢鼎へ書面出ス。コピーニアリ。

一 並木〔覚太郎〕氏ヲシテ来ル十六日夕松伯方訪問ニ差問アルヤ否問

合ハサシム。

一大石正巳氏ヨリ鶴原君より請取タリ云々来状。

〔欄外上〕「本日ヨリ生糸羽二重ノ利子一厘ヲ引下ル」

〔三井銀行ニテ外国為替之事取調居ルコト及亀屋、木村、生糸合名杯
同店へ生糸抵当ニ持込ミ云々内々聞及ビ〕

十一月二日(土)

土曜日。

来状 武井守正但代理店ノ件、直ニ返書出ス。〔日本倶楽部〕入会ニ
付入会金及会費受取人差越旨申来ル。

〔欄外上〕「日本倶楽部入会」

十一月三日(日)

日曜日。葉山。島郁太郎来訪。

十一月四日(月)

月曜日。

一重役会ヲ仕舞大隈伯園遊会ニ赴キ夫より常盤屋うなぎ会ニ出席。本
所へ戻ル。

一 生糸合名会社ニテ十万円信用貸高(尚抵当分)減少之義申出ル。依
テ手續甚タ宜カラザル旨申談ス。其儘据置ノ事ニ願出アリ。

十一月五日(火)

火曜日。

一日本銀行ニ赴キ出張場所見分、追テ技師ヲ出シカオントル〔コン
ドル〕杯ノ事指図スル旨申置ク。

一日本倶楽部入会金等仕払ノ事原田へ托ス。

十一月六日(水)

水曜日。

一 小野光景氏来訪、山本総才招待ニ付相談アリ、承諾ス。

一 宗方茂八へ月給十五円ニテ採用ノ事申遣ス。

一 妻木〔頼黄〕氏来行、日本銀行借入家屋雑作ノ事相談且薄井氏より
借用ノ同図面同氏へ渡ス。

一 大坂築港ノ義ニ付中井芳楠へ書面認ム(コピー)。

〔欄外上〕「中井」

一 昨夕松方伯宛書類(外国債募集ノ件)郵送セリ。

一 木村清四郎へ仏国ノ調書及原田貞翁へ□火製造人調方ニ付書面野

田〔不明〕ニ托シ送ル。

一 シヤンド〔Alexander A. Shand〕へ大坂築港ニ係ハル手紙出ス。

一 高嶋小金治昨夕来行、米国仲買人ノ件相談アリ。手紙ヲ送ル事ニ約
束ス。

一 Plummur 及 Duryee (copy) へ出状(但大倉組代理ノ件)。

〔欄外上〕「ブランムル」

一 中井芳楠へ奥村(忠三郎)及巽〔孝之丞〕ノ事ニ付電報ノ確メニ付
書状出ス(十七日付)。

〔欄外上〕「中井」

一 銀行集会所編輯局ヨリ演説速記送リ来ル。一見ノ上直ニ郵便ニテ返
送セリ。

十一月七日(木)

木曜日。

一三田〔信〕氏え利子九千八百円ノ由通知セリ。

一横滨市ニ於テ帝国常備艦隊歓迎会寄附金五十円ト約束ス。

一来状 中井芳楠。

一宗方茂八氏来行、山本氏ノ手紙持参、頭取ニ面会サセ七月給十八円ニ〔テ〕採用ノ事ニ決シ山本氏え返書出ス。

一二月二八日〔金〕

金曜日。

一河曲覚一池田氏面会之結果申来ル。依テ原田貞翁へ猶勉強勧告スベキ旨申遣ス〔午后三時ヨリ三井園遊会ニ行ク、帰浜〕。

一二月二九日〔土〕

土曜日。

一来状 今西。

一昨夜梅浦〔精一〕氏ニ三井ニ而面会、同人子息之学資ニ付依頼書ヲ送ルコトヲ約シ其手續ヲ命セリ。

一午后葉山へ赴ク。

一二月二〇日〔日〕

日曜日。葉山。

一二月二一日〔月〕

月曜日。東京新橋肥前屋ヨリエンチャントレス〔花の種類〕千本送付セリ。代金十七円五十銭小切手ニ而送ル。此日日本銀行新旧総才ヲ常

盤屋招ク。

来状 小田切万寿之助、桂太郎、小栗富次〔治〕郎。

一二月二二日〔火〕

火曜日。此日山本総才ヲ横浜有志者ト千歳へ招ク。

一二月二三日〔水〕

水曜日。休日。原田宗助見舞。帰浜ス。

一二月二四日〔木〕

木曜日。高島嘉兵衛氏渡辺福三郎君ト来訪、セメントノ談アリ。

来状 鍋倉直。

頭取神戸へ明后日出立ニ付依頼ノ事。

〔欄外上〕「頭取よりノ委任」

一来ル廿七日頃モルース〔モールス〔James R. Morse〕〕帰浜スヘキ

ニ付約束書取極ノ事。

一行員新任者及移動ノ件。

一中井芳楠へ宛奥村婦朝ヲ命シ巽副支配人心得ヲ命スル旨ノ電信ヲ出セリ。

一加藤典雅来行〔午后五時頃〕、給料ヲ青木抔ト同様同級生タリシ訳

ヲ以テ同給ニ採用ヲ望ム。依テ其採用ナリ難キ旨ヲ申聞ケタルニ、

矢張り頭取申聞ノ如ク十八円ニ而承諾之由答フル付、医師ノ検査ヲ

受ケシムル為メ添書ヲ乗竹〔孝太郎〕ヨリ渡セリ。

一来状 長崎剛十郎。

一月二五日(金)

金曜日。

来状 高橋琢也、同返事出ス。斎藤嘉一郎。

一月二六日(土)

土曜日。本日ヨリ頭取神戸行、山川〔勇木〕休暇。

一大蔵省より東京出張所聞届ラル。

一松尾〔臣善・理財〕局長え年内政府為替取寄金ニ付問合セ書ヲ出ス。

葉山へ往ク。

一月二七日(日)

日曜日。葉山。三〔美〕沢、清水長介来訪。

一月二八日(月)

月曜日。重役会(三田、木村、鶴原、監理官)。

一出状 中井、川島、市川〔亮功〕。

一台湾協会出金五百円ノ中第一回百円仕払ス。今村清之助氏より十二

月二日午后四時常盤屋へ。同五日日本俱樂部午后四時、同六日午后

四時千歳楼大谷嘉兵衛氏より招待、何レモ承諾セリ。

一月二九日(火)

火曜日。

来状 相馬頭取、早川千吉郎(但年内百万磅ノ事)。

出状 相馬、島郁太郎。

一モールス氏来行ニ付延期書面ヲ見セ同氏同意ニ付相馬氏帰浜次第記

名スル由。且代金受取分有之ニ付渋沢氏より催促シテ報告書ヲ廻ハ
ス由。

一清水長介来行。神戸支店用度方ノ件内情話アリ。

一月三〇日(水)

水曜日。

一宗方氏拜命セリ。

一来状 中井芳楠、戸沢。

一出状 中山尚之介〔助〕。

一アレンス抵当品不整理ニ付、休暇中之外国課長、及内国抵当課長

ヲ呼集至急整理ノコトヲ命セリ。

一当座記帳方不都合ニ付簿記者ニ注意ヲ促セリ。

二月一日(木)

木曜日。

一旧名加藤三平(平本)廿五円雇ノ辞令書渡セリ。

一アレンス抵当整理方尚山川氏ニ談ズ。

一大蔵省へ香上銀行〔香港上海銀行〕営業同等ノ事ニ付回答ス。

一来状 前田正名、返事セリ。

一出状 菊地忠三郎、長崎剛十郎。

一東京銀行集会所員広瀬毅氏来行。保証準備増加ニ関シ意見ヲ問フ。

二月二日(金)

金曜日。午前八時半出行。雨。

一小供 原鏡之助、山本義一、加藤康輔、深町孝之助四人椅子ヲ持チ

本日遊べり。依テ氏名ヲ徵シ乗竹氏ニ渡ス。

来状 伴野乙弥、同返事出ス。

高田慎蔵君来行、東武鉄道会社注文汽関車（イ、ク、ワ）為荷替凡ソ二十万円程六十七日間七歩五リ〔厘〕ニテ延期、アト二ヶ月間ハ其時ノ相談トス。先方之望ミハ年六歩ニ而来年三月迄借用シ同四月ニ至レハ右汽関車鉄道局へ売却之約束アル云々猶高田氏ハ鉄道局へ問合之筈ナリ。

一午后二時三拾六分發ニ而東京ニ行キ午后四時常盤屋へ赴ク、但今村清之助氏より之招待。帰浜。

一二月三日（土）

土曜日。雨。午前八時出行。内国部金庫開放シアリ。依テ子供ニ尋ねルニ今朝席ト申人東京行ノ用事アリテ明ケタリ。多分布掛ノ用事ニ而通信省へ参リタルナラント云フ。依テ何人カ常ニ之ヲ開放スルヤト云フニ、別ニ鍵ヲ懸ケズ唯符号ノミニテ子供ガ常ニ之ヲ開閉シ、時ニハ金庫之間ニ合ハザルトキハ証書類モ仮ニ入レ置クト云フ。仍テ中ヲ改ムルニ外国人ノ約束手形及抵当差入証書等アリ。又日本銀行小切手モアリ。甚不取締ナルコトヲ発見セリ。仍テ課長及宮田〔不明〕ヲ呼ビ注意ヲ加ヘタリ。

一二月四日（日）

日曜日。葉山。午后五時原田与四郎病死シ通知ヲ受。

一二月五日（月）

月曜日。重役会ニ木村氏一名出席、大蔵省より監理官来行。午后ヨリ原田ヲ東京病院ニ見舞、前田ニ立寄晩食后帰浜ス。東京俱樂部断ル。

一二月六日（火）

火曜日。

一左右田〔金作〕氏ト同行借入地見分ヲ為ス。現住人苦情ニ付飯塚〔不明〕ニ命ジ横山某ト同行、売主及証人ニ嚴談シ其報告ヲ為ス様命セリ。

一来状 日本經濟会、前田正名、毎月会。

一毎月会、日本經濟会共ニ承諾セリ。大谷氏より千歳樓ニ招カル。

一二月七日（水）

水曜日。

一大蔵省理財局長ヨリ前夕電話ニ而出省ヲ求メ来ル、依テ午前十時出省。用向ハ上海及香港ニ於テ今後円銀売却見合之事ニ付両所へ指図スル件、依テ直ニ日本銀行より電話ニ而本店へ命ス。

一日本銀行ニ赴キ山本氏ト相談ノ上利子壹厘引下ノ事ニス。

一為替相場一点上ルコトニ命ジ今朝ヨリ実行セリ。

一安田氏ニ行キ日本銀行株引受ノコト相談纏マル。

一河上謹一外ノ借用金此次ヨリ日歩ハ並ノ最低ト改ムル事トス。

一夕刻ヨリ瓢屋へ戸次〔兵吉〕氏ニ招カル。

一二月八日（木）

木曜日。

一来状 平井正憲、長鋒郎、島郁太郎。

一安田善次郎氏より紀念物贈ラル。依テ礼状ヲ發セリ。

一午后二時四十二分ニテ葉山へ行。

一二月九日(金)

金曜日。(日本經濟会ノ招待ニ付夕刻帝國ホテルニ行ク。

一 洪沢氏より京仁鐵道報告書來ル。

一來状 三野村、前田、石井伝之、青木鉄太郎。

一出状 前田断ル、モールス氏請求書來ル。

一 安西〔政一郎〕氏ニ取引開始ニ付二万円生糸期初ニ於テ信用割引ヲ

許ス。

一 モールスヘ代金渡シ返事出ス。

香港円銀売却差止メ之処、御用為替不足分ハ尚売却スベキ旨大藏省より指図ニ付其事訓電セリ。

左右田氏來行、地所之儀ニ付壯士ハ直接飯塚氏ニ相談ヲ開度旨申來レリ云々、依テ頭取帰浜ノ上相談スルコトトス。

横浜ドック会社株当座担保トスルコトニ決ス。払込額廿五円時下三十
四円此抵当価額払込金額(但安西氏之当座抵当。

一二月一〇日(土)

土曜日。

來状 長峰郎、岩崎其他但伊藤〔博文〕侯招待ニ付明日午后二時帝國ホテル出席ノ事。

一出状 安田善次郎(但大坂公債見返品繰入之義ニ付鶴原山本)相談

之約束、若菜福郎〔朗〕氏え來ル十九日迄二三万五千円送金ノ事。

葉山行。

一二月一一日(日)

日曜日。

午后二時ヨリ帝國ホテルニ赴ク、但伊藤侯等招待会晚餐行。帰浜ス。

一二月一二日(月)

月曜日。

來状 相馬、古山、銘人会、日本經濟会、洪沢、大谷、池田、日本俱樂部。

一 日本貿易協會忘年会招待來十六日湖月樓、承諾。

一 十三日帝國ホテル会洪沢氏よりノ通知承諾。

一 日本俱樂部ニテ來ル十九日支那人招待發起人タルコト承諾セリ。

一 京浜銀行ノ岡部廣、山本達雄君之紹介ニ而本日来行、布哇出張所之
事務讓受度旨ノ懇談アリ。依テ右ハ先方之信用増進シテ正金銀行出

張所之設置必用ヲ認ザルニ至レハ歎テ讓ル可シ、又契約積立金九十
万円ノ利子四歩ヲ一般預金利子同様引揚之事ハ先方之害ナルニ付見

合セ置ベシト云コトヲ以テ円滑ノ相談ヲ為シ、先方モ板垣〔退助〕
ニ貳千円、星〔亨〕ニ五千円(内四千円返済)及憲政党本部建物差

押ヘノトキ七八千円ヲ出シ一時本城ヲ持續ケタルコト、及早稲田專
門学校員杯ノ割引及北海道屯田銀行へ融通シ又移民会社ノ預ケ金ニ

十万円ヲ出セリ云々等ノ内輪話アリ。

一 三田山本兩氏え連合借入金ノ件ニ付手紙出ス。

一出状 古山数高但旧株残之精算書ノ件。

一 九州実業協會惣代石野寛平ヨリ本行支店九州地方へ設置ノ件請求書
到來、重役会ニ報告セリ。

一二月一三日(火)

火曜日。雨。

一来状 安田善次郎、若菜福朗、古山数高。

一本日安田より三万五千円受取日本銀行株百株相渡ス。古山君より委任状来ル。大谷氏え送り且古山へ小切手ニ而代金相渡セリ。

一磯野菊忌中より故磯計〔磯野計〕ノ一回忌ニ付明日二時ヨ〔リ〕増上寺へ参ル様申来ル。香奠ヲ送り断ル。

一正午后ヨリ渋沢氏ニ招集ニ付帝国ホテルニ赴ク。実業家増地租期成同盟会ヲ組織セリ。

一日本銀行ニ赴キ山本、鶴原ヲ訪フ。山本氏不在、直ニ毎月会ニ湖月ニ至ル。山本氏ニ他銀行者間利子引下ノ事ニ付正金銀行ニ対シ不平アル云々ヲ談示、后事相談セリ。○池田氏より三井等ニテ正金銀行利子引下ノ事ニ付不平云々ノ談示アリ。夫々答置ケリ。猶此頃連中会合ノ事ニ承諾ス。帰浜セリ。

一古山氏より正金新株大谷氏渡ノ分小包ニテ到着セリ。

一二月一四日(水)

水曜日。晴。

一添田氏紹介ニテ坂田〔定一〕法学士来訪セリ。

一日本倶楽部支那人招待会来ル十七日〔土曜〕及来ル廿一日銘人会共差岡ノ趣ヲ以テ断リ書出ス。

一法学士坂田定一来行、猶相談ノ上返事スルコトトセリ。

一来状 川島忠之助、ブアリス、渋沢外有志会〔帝国ホテル〕。

一頭取出勤ニ付不在中ノ件報告セリ。

一可児〔弥太郎カ〕及島両氏来訪、晚餐ニ成川〔尚義〕氏より招カル、断ル。但来週都合ヲ見テ報知スル筈。

一古山数高へ金五千円預ケ金トシテ送ル。

一秦清祐氏より来状、返事ス。

一二月一五日(木)

木曜日。晴。

一来状 豊川、三田、返事ス。

一左右田氏所有海岸地面内地測量ノ事花咲〔不明〕ニ命ジタリ。

一午后ヨリ銀行集会所ニ出席、夫より常盤屋秦清祐島外式人ヲ招キ晚餐ヲ了リ帰浜セリ。此日集会所ニテ正金銀行ニ関シ意見ヲ述べタリ。

一二月一六日(金)

金曜日。晴。

来状 帝国ホテル同盟会渋沢、高橋義雄、古山、大谷。

出状 古山、大谷。

一二月一七日(土)

土曜日。晴。葉山行。

一二月一八日(日)

日曜日。晴。

松尾吉士氏来ル。孟買支店ノ件ニ要談アリ。植木屋ニ土手上ノ植込四ツ目垣ヲ作ルコトヲ命ゼリ。

一二月一九日(月)

月曜日。晴。

一重役会ニ於テ神戸支店主任始メ各出張所等ニ付人ノ配置ノ件ニ係ハ

ル意見ヲ述ブ。

来状 古山、大谷、青木鉄太郎、三田、渋沢。(布哇領事斎藤)。

午后ヨリ病院ニ原田ヲ見舞、鈴木へ立寄古山下協議ノ上、日本商業銀行株鈴木古山持トシテ精算ノ事トス。本所宅へ戻リ是福退校ノ件談示ス。

一二月二〇日(火)

火曜日。晴。

一来状 古山、三田、高木。

一本日午前十時ヨリ横浜商業会議所役員会ノ通知アリ、断ル。

一正金第一新株五拾円服部氏之手ニ依売却セリ。(一株百八十五円)。

一左右田下地面ノ事談判ノ上建築所技師等ニ測量ノ上妻木氏ト相談スベキコトヲ命セリ。

一出状 高島小金次〔治〕。

一二月二一日(水)

水曜日。晴。

一山本氏紹介ニ係ハル清水義英氏来行、同氏履歷書及英仏文ヲ届クル様申聞ケタリ。

一渋沢氏よりホテル会及大蔵大臣〔松方正義〕ヨリ茶話会ノ案内アリ、共ニ断ル。

一頭取病氣ニ付欠勤。

一堀越商会ヨリ新約克預合金総計式拾四万円ニ増額ノ件内相談ノ為メ書面来ル。依テ聞届ル旨返事ス(但電話ニテ頭取へ相談ノ上)。

一来状 三田、河上但借用金結了ノ件。

一横浜商業会議所午前十時役員会、断ル。

一葉山貸家ノ件ニ付原田宗助へ紹介ス。

一仙石貢氏より来廿四日花月楼へ招カル、断ハル。

一大日本綿糸紡績同業連合会委員長佐伯勢一郎より資金明年中延期ノ件其筋へ請願云々申来ル。依テ副書ヲ作り明朝頭取持参ノ事ニス。課長会ヲ開ク。

一二月二二日(木)

木曜日。晴。夕刻雪。

一来状 三田、三野村。

一三野村氏ニ金壹万七千五百円送り株券書類受取。河上謹一分悉皆落着。

一左右田地面総テ四十垧坪担道路ニテ処ニ取ルコト。又前ノ地代返済ヲ求ムルコト。又新規地代ハ一月ヨリ払フ事トス。

一日本銀行ニ赴キ綿糸同業者佐伯氏請願之件ニ付総才及薄井理事へ話ス。

一渋沢氏より過日来之運動ニ付礼状ヲ発セリ。

一鈴木方二一泊、小川町地売却一月廿五日取引之事治定セリ。

一二月二三日(金)

金曜日。晴。

一来状 三野村、原田、早川、板垣伯、原田宗助。

一三野村返金ノコト相済一切ノ事落着セリ。

一板垣伯ヨリ茶話会ノ案内、断ル。

一午后五時瓢屋へ松方正作氏送別会ニ付山本ヨリ招カル。

一 常盤屋払済マス。但野田氏ニ托ス。
一 肥前屋ヨリ約束ノ紙卷煙艸到着セリ。

一 相馬氏之建築所員年末手当及仲買人手当之件ニ付書面出ス。
一 山本氏より松方正作送別ノ為メ瓢屋ニ招カル。

一 二月二四日(土)
土曜日。晴。

一 清水義英氏之十八円ニテ採用ノコト申送ル。

一 交換所銀行ヨリ廿六日午後五時より湖月〔樓〕へ招カル。

一 午後ヨリ葉山へ往ク。

一 二月二五日(日)
日曜日。晴。

一 齋藤知行來訪。

一 二月二六日(月)
月曜日。晴。

一來状 古山、肥前屋、清水義英。

一來訪 坂田定一、鈴木紹介宮島新七、太田直次。

一 午後四時ヨリ交換所組合銀行ノ招ニ依リ湖月樓ニ赴ク。席上山本総才協議ノ上課税問題ニ付富田〔鉄之助・元日本銀行総裁〕方へ赴キ相談ノ上山本之電信ヲ出シ帰浜ス。

一 二月二七日(火)
火曜日。雨天。

一 日本貿易協会正副会頭ヨリ會員ノ冀望ナリトシテ入会ヲ望ミ來ル。依テ會員タルコトヲ承諾セリ。

一 三野村氏之プランデー三本野田氏ニ托シ送付セリ。

一 河曲祐七郎ヨリ売邸宅ノ儀ニ付來状、過大ニ付断ル。

一 京浜銀行頭取岡部廣來行、布哇対本邦為替ノ件ニ付相談アリ。依テ本行出張所ニ就テ時々問合セ一定スル方可然旨申聞猶添書ヲ与フ。京仁鉄道ノ儀ニ付〔第一三回帝國〕議會ニ於テ質問ヲ發シ又大ニ、

一 日本人新聞ニ此事ヲ抗撃スル云々ノ談アリ。依テ其外交上ニ関スル利害ヲ説キ慎重ナルベキヲ勸告ス。

一 又日本銀行課税問題ニ付利害ヲ説ク。同人ハ由利〔公正〕氏ニ明朝出掛ケ其意見ヲ山本氏又ハ当方へ知々スルコトトセリ。

一 美人〔米花齋〕英之筆ノ掛物ヲ歳暮トシテ持來レリ。

一 二月二八日(水)
水曜日。晴。

一 山本総裁ヨリ用談アル趣申越タルニ付日本銀行ニ行キ運動云々秘密談アリ。直ニ相馬氏ト日本俱樂部ニ面会谈合ノ上、明日他重役ト秘密ニ議シ三万支出ノコトトス。

一 此日千歳ヘサミユル〔商会〕よりノ招ヲ受居リタルヲ断ル。

一 夜帰行ノ上山本氏へ電話ニテ見込ヲ通ゼリ。

一 二月二九日(木)
木曜日。晴。

一 松尾局長ヨリ参考書籍小包ニテ來ル。

一 重役会ヲ臨時ニ開キ損益勘定及臨時交際費支出ノ件議決ス。

一 午後四時半頭取同行、山本総才宅へ往ク。本所一泊。

一 二月三〇日（金）

金曜日。晴。

岩崎氏訪問不在但大磯ニ赴カレタリ。

一 百十三銀行へ通知預金壱万円入金セリ、日歩弐銭、京浜銀行談等アリ。

一 午後出勤。早川氏ト千歳ニ晚餐ス。

一 二月三一日（土）

土曜日。晴。

一 来月六日高島小金治君約束断ル。

〔次の五五頁には「白紙十一枚あり」との書き込みがあるのみ。最後の五六頁は断片的な記事と月・日付が記載されているが、内容から判断して本日記の補遺ないし部分要約である。時系列に再整理すると左記の通り。〕

九月二八日 瓢屋名人会。

九月三〇日 午後四時向島大倉〔喜八郎〕別邸へ招カル。

一 〇月三日 午後四時ヨリ永田町大藏大臣〔松田正久〕官邸ニテ台湾銀行設立委員協議会相開為メ臨席ノ旨大臣ヨリ通知アリ。

一 〇月一〇日 午後五時帝国ホテルへ毎月会ヨリ招カル、承諾。

一 〇月一一日 午後二時ヨリ本所横網町安田〔善次郎〕扣邸ニテ同氏還曆内祝園遊会ニ招カル。

一 〇月二〇日 農商工高等会議開会ノ旨〔大石正巳・農商務〕大臣ヨリ通知。

一 二月二日 午後四時今村〔清之助〕より常盤屋。

一 二月五日 午後五時日本俱樂部。

一 二月六日 午後四時大谷〔嘉兵衛〕氏より千歳楼へ。

〔付記〕

本稿で紹介した「高橋是清日記」の閲覧にあたって、武田晴人先生より格別のご高配を賜りました。また、翻刻は前田が担当しましたが、校正に際し、季武嘉也先生、千葉功先生、小林延人氏にご助力いただきました。末尾ながらこの場を借りて心より御礼申し上げます。

なお、本稿は、独立行政法人日本学術振興会平成二二年度科学研究費補助金（特別研究員奨励費）による研究成果の一部である。